

بِسْمِ اللَّهِ الرَّحْمَنِ الرَّحِيمِ

2017年2月11日

第1回全国ムスリマミーティング（第3回全国ムスリムミーティング）

共同声明文

ムスリム中高生に対するイスラーム教育 12 箇条

1. イスラームの教えは、その正しい理解と実践を通じてこそ、信仰や価値観の違いを超えて全人類を平和裏の共存に導きうる。
2. イスラームの教育によって、格差、差別、偏見が助長されることがあってはならない。
3. 宗教に強制があってはならない。イスラームの教育についてもまた同じ。
4. 子供たちが、日本社会の価値観と親から教えられたイスラーム的価値観の板挟みになる状況が、程度の差こそあれ、確実に存在する。そうした状況にあっては、むしろ子供たちを信頼して、見守る姿勢を貫くことが重要である。
5. 強制的なイスラーム教育は反発・反抗を招き、ひどい場合には、イスラーム嫌いにまでつながっている事実が存在することを十分に認識する。
6. 本来、イスラーム教育とは、アッラーと彼に対する信仰の素晴らしさを伝えるところから始めるべきである。表面的なルールへの刷り込みから行なっても信仰心は育たない。
7. 前条に言う教育は、子供たちが最も親しんでいる言語で行なわれることが望ましい。
8. 家庭教育の基本は、夫婦対等のコミュニケーションであり、それと同時に、親が行動で示すことで、子供たちに慈しみ愛する心を教えることである。
9. 学校教育の現場を、イスラーム的ではないと決めつけるのではなく、学校側と必要に応じた十分なコミュニケーションをとる努力を行なう。過剰な権利の主張は、イスラームに対する偏見を招く恐れがあるばかりか、子供たちの学校での居場所や友達との良好な関係を奪いかねない行為である。
10. イスラーム教徒であることと、日本社会の中で育ち暮らす者であることの間には矛盾は生じない。
11. 仲間づくりのための交流・活動の場があることが重要である。
12. イスラームの教育において親自身がまず理解し、実践して、子供に伝えるべきポイントは、次の7つ。

（《聖典クルアーン》31章「ルクマーン」13～19節）

1. アッラーの唯一性。アッラー以外のものに囚われることは大きな間違い。
2. アッラーは、本当にすべてを御存知。
3. アッラーに祈ること。
4. 善を勧め、悪を禁ずること。
5. 困難に対して忍耐すること。
6. 高慢・傲慢を戒めること。
7. 歩きぶり、話しぶりを穏やかにすること。

以上

2017年2月11日

慶應義塾大学 SFC 研究所イスラーム研究・ラボ代表
慶應義塾大学総合政策学部教授 奥田 敦

〈お問合せ先〉

慶應義塾大学 SFC 研究所イスラーム研究・ラボ

e-mail: islamlab_sfc@googlegroups.com

慶應義塾大学 SFC 研究所イスラーム研究・ラボ代表 奥田 敦

e-mail: ssalam@sfc.keio.ac.jp

〈配信元〉

慶應義塾大学 湘南藤沢事務室学術研究支援担当

TEL 0466-49-3436

e-mail: kri-pr@sfc.keio.ac.jp